

# 「成人」家族で祝おう

## コロナで式典望めず

成人式の前に写真館などで晴れ着姿の撮影をする際、親子で感謝の言葉などをやり取りする「家族成人式」や「家族のための成人式」と呼ばれるセレモニーが広がっている。今年度は新型コロナウイルスの影響で、例年通りの形で成人式を行えない自治体も出てきているため、関心を集めているようだ。

(宮木優美)

「いつもありがとうございます。これからは、ママが幸せだと思うことをたくさんしてね」

7月、東京都小平市の専門学校生、加地月南さん(20)は、しつとりとしたBGMが流れる中、華やかな振り袖姿でスポットライトを浴びながら、母の麻友子さん(43)への感謝状を読み上げた。

麻友子さんは目にはうつつらと涙を浮かべ、「成人式が行われるかどうかも分からないので、こういう機会が持てよかった」。月南さんも「普段は言えない感謝の言葉を伝えられてよかった」とほほ笑んだ。

「いつか」もありがた。これからは、ママが幸せだと思うことをたくさんしてね」

7月、東京都小平市の専門学校生、加地月南さん(20)は、しつとりとしたBGMが流れる中、華やかな振り袖姿でスポットライトを浴びながら、母の麻友子さん(43)への感謝状を読み上げた。

麻友子さんは目にはうつつらと涙を浮かべ、「成人式が行われるかどうかも分からないので、こういう機会が持てよかった」。月南さんも「普段は言えない感謝の言葉を伝えられてよかった」とほほ笑んだ。

加地さん親子が参加したのは、関東、中部などで呉服店を展開する「いつか」(新潟県十日町市)が、都内の結婚式場を借りて行った「家族のための成人式」。成人式の前にも多くの新成人が行う「前撮り」と呼ばれる写真撮影の後に、プロの司会や音響、照明を入れ、感謝や励ましの言葉をやりとりする10分ほどのセレモニーだ。同店で振り袖を借りたり購入したりして前撮りを行う親子を対象に2017年から実施している。

コロナの影響で、今年度は例年通りの成人式が行われるかは不透明。夏の開催が延期となったり、会場の分散化やオンライン開催を検討したりする自治体もある。このため、セレモニーへの関心は高く、昨年度より200人以上多い950人が実施予定という。

同社の中西昌文さんは「これまではセレモニーを恥ずかしくて嫌がる人もいたが、今年はそういう反応は少なく、前撮りをするほぼ全ての親子に利用してもらっています」と話す。

中国地方で呉服店など19



読み上げた感謝状を母に手渡す加地月南さん(右)  
(東京都港区で)

## 両親に感謝◆子育て卒業 呉服店など各地で企画

### 「自治体主催」にとらわれず

現在、全国各地の自治体で行われている成人式は、戦後間もない1946年に埼玉県蔵市で行われた「青年祭」を発祥とする説が知られている。戦前の30年代に名古屋市で行われていたことを伝える新聞記事もあるが、いずれにせよ、戦後になってイベントとして各地に広まったものようだ。

民俗学者の室井康成さんによると、「20歳で成人になる」という認識は、元服のような習俗に基づくものではなく、戦前の徴兵制が満20歳の男子を対象としたことや、戦後に広がった自治体主催の成人式によるもの。行政によってつくられた基準でしかない」と説明する。

今年度はコロナの影響で、これまでと同様の成人式が行えない地域があるかもしれないが、室井さんは「成人式自体は日本の伝統とは直接関係のないもので、今までのやり方にこだわる必要はない。新しい祝い方を考えていけばよいのでは」と話す。

店舗を展開する「やしまグループ」(広島市)も、今月から同様のサービスを行う「家族成人式」を試験導入。式を実施した数組の親子から「やってよかった」という反応があったといい、今後、本格的に展開していく予定という。

これまで100組以上に「家族成人式」を行ってきた茨城県龍ヶ崎市の「佐沼屋呉服店」社長の石島通孝さんは「成人式は、親子だけで写真館で撮影できる最後の機会となる家庭も多い。自治体の成人式とはまた違った、いい思い出となるはず」と話す。

5年前から全国の呉服店や百貨店などで「家族成人式」の出張サービスを行ってきた「京都プロデュース」(京都市)社長の井口久勝さんは、同窓会のようになっている現在の成人式とは別に、家族だけで祝える場を提供したいと取り組んできた。「家族成人式は、子にとっては20年間育ててもらった両親に感謝を伝える場で、両親にとっては子育ての卒業式。無事に成人を迎えられたことを喜び、家族の絆を確認する機会として広がってほしい」と話す。